

ミヤマミズ	<i>Pilea angulata</i> (Blume) Blume subsp. <i>petiolaris</i> (Siebold et Zucc.) C.J.Chen	絶滅危惧Ⅱ類
		イラクサ科
選定理由	岐阜県では生育地が少なく一部の場所を除き個体数も少ない。	写真(荻山恒弘)
形態の特徴	夏緑性の多年草。根茎は這い群生する。茎は高さ40-80cm。葉は鮮緑色で鋸歯が目立つ。葉腋から集散花序を出し多数の花を着ける。花期は8-10月。瘦果は長さ1.5mm位。	
生態的特徴	山地のやや湿った林下に生育している。	 
分布状況	県南の中部の狭い範囲に見られる。	
減少要因	生育地の林下の光条件の悪化が主な要因と思われる。	
保全対策	生育地の森林の適度な管理が必要である。また林道等の整備の際にも配慮が必要である。	
特記事項	コミヤマミズによく似るが、全体にやや大きく葉の先端はあまり伸びず瘦果も小さい。	
参考文献	佐竹義輔他. 1982. 日本の野生植物. Ⅱ. P. 6. 平凡社. 東京.	

文責: 荻山恒弘